



完成した平和の紙芝居とともに笑顔の中尾さん

輝いています

「シニア読み聞かせじゃんけんぽん」代表

ひと

なか お 中尾 るり子 さん

世代を越えて平和を伝えたい

言

葉と絵でストーリーを紡ぐ絵本の世界。仲間と読み聞かせを行って、その魅力を伝え続けているのは、中尾るり子さん(66歳・中央2丁目)です。既存の物語を読むだけでなく、平和の紙芝居を作るなど活動を広げています。昔から活字や本が好きだった中尾さんは、6年前に読み聞かせ講師・植田たい子さんの活動を知って一念発起。第一期読み聞かせボランティア養成講座に参加し、発声練習から絵本の選び方・持ち方に至る、読み聞かせの奥深さに驚きながらも、その楽しさに引き込まれていきます。

発足。児童館や保育園で活動を重ね、着実に腕を磨きます。目をきらきら輝かせる子どもたちとの時間は至福のとき。より良い本を届けたいと思いつつも、介護や病気などで一昨年までに仲間は半減し、シニア活動の難しさを感じます。そうしたなか、昨年1月に出会ったのが、第二中学校美術部が描いた12枚の絵でした。戦火を越えて成年式を開き、若者たちが希望を取り戻す絵に心を動かされ、「未来の子どもたちのために、平和の願いを届けたい。ストーリーを付けた紙芝居にしよう」と仲間の思いは一つに。歴史に忠実に表現するための資料集めなどに苦勞しながらも、今年3月に紙芝居は無事完成。その傍らには、中尾さんたちの活動に共感して加わった新たな仲間の姿もありました。

コロナ禍で今月の公民館平和事業でのお披露目はかないませんでしたが、来月には読み聞かせを再開したいと語る中尾さん。広い世代にメッセージを伝えるため、今後は高齢者施設での活動も目指します。活動の危機を乗り越えて出した手はチョコキ(ピース)。中尾さんの次の手に注目です。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.51—



暁斎筆「猪に乗る蛙」錦絵

蛙が両手を広げ、猪の背中にまたがって行進しています。コウモリが先導役を務め、バツヤやカマキリたちはお供といったところでしようか。暁斎が数え3歳で母に連れられ、上州館林の親戚を訪ねた際に、初めて写生をしたのが蛙でした。以来、数多くの蛙の絵を描き、谷中の瑞輪寺にある暁斎の墓石も蝦蟇の形をした自然石です。蛙に始まり蛙に終わると言われるほど蛙を愛した暁斎ならではの、蛙を主役にした動物戯画です。

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎一門が描いた動物戯画」展 同時開催「故・山根光雄制作 復刻浮世絵版画」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日、毎月26日～末日、年末年始
ところ = 南町 4-36-4
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳細 = 同館 ☎41・9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

